

ザナージ家の歩み

100年以上前からの情熱と経験を受け継ぐザナージ家は、ゆうに四世代に渡りワイン造りに携わっております。

一族の始まりは、ルイージ・ザナージが生まれた 1883 年に遡ります。飢えと貧困で家族を養うのが困難な時代、大規模農地の所有者のもとで働いていたルイージは、1900 年に



その畑仕事に加え、ワインも造っていました。小さな自家用農場を質素な醸造所に建て替え、およそ 5000 リットルのワインが入る 8 つの小さな木製樽を置き、自分の馬車で近くの村の食堂に一人で卸しに行っていました。そして、1919 年に生まれたブルーノは、とても若い頃から農業に携わり、父から仕事を習っていましたが、あいにく 18 歳の時に兵役のため中断せざるを得なくなりました。第二次世界大戦の勃発です。



戦争が終わり、捕虜となっていたブルーノは解放され、1952年に結婚し、二人の子宝に恵まれました。マリネッタ（1954年）と今は亡き父の名に因むルイージ（1959年）。戦火を乗り越えたブルーノは諦めることなく、農業に対する情熱は愛着と言えるほどでした。父からの教えに従いながら農業に打ち込み、1957年にはサン・ヴィートにおよそ 10ヘクタールの土地を購入しました。まさにその当時、工場が建ち始め、機械技術とより安定した賃金に魅せられた若者が田舎での農業や仕事から離れていきました。しかし起業精神の方が強かったブルーノには、一度抱いた夢を諦めようという考えはありませんでした。子供達の支えもあり、1978年、ボローニャのラヌッツィ・デイ・ビアンキ伯爵が所有していた 11ヘクタールの土地を購入し、新しい会社が誕生しました。



ザナージ家はカステルヌオーヴォ、カステルヴェトロとスピランベルト近くに新たに土地を購入し、邸宅を改築してきました。そして現在、90代になったブルーノは、経営はマリネッタとルイーダに任せていますが、農業に対する情熱は昔と変わらぬまま現役として働いています。ルイーダはモデナ産とパルマ産ハムの原料豚を飼育する養豚場を所有し、パルメザンチーズ用の牛乳を加工しています。

ブルーノの甥にあたるマルコは、ブルーノが根気強く情熱を注いでワイン造りに必要な全ての要素を教えたことで、今では真のプロとなりました。ワイナリーに顔を出しながら、今はまだ若き学生である弟のマッテオといつの日か一緒に会社を発展させ、先代が努力と犠牲を払って築き上げてきた物を守っていくことを楽しみにしています。



このように代々からの歴史がそれぞれの家庭に浸透し、ザナージ家が革新と真正なワイン造りの信念のもと生み出してきたことを享受し、分かち合っております。この賜物はこの先もずっと受け継がれていくことでしょう。

